

経験

総務省に入省して以来、霞が関、県庁、市役所と様々な場所で働いてきました。地理的に特徴の異なる場所で生活できたということに加え、高知県で仕事のイロハを、そして総務省で国の動きや個別政策の制度設計を学び、その後の滋賀県東近江市や新潟県では市や県の全体像を考えることを通して、国や社会を見る目が徐々に広がってきたことを実感しています。

さらに、現在は外交官としてEU離脱をめぐる激動の英国政治の分析を担当し、国際化・多様化の最先端の地とも言えるロンドンで、英国人に限らず、多くの人に出会う機会に恵まれています。これに当たって英国の制度を学ぶことは当然ですが、これまでの業務で得た地方公共団体が扱う幅広い施策に関する知識等も非常に有用であると感じています。そして、その一つひとつが日英の制度比較など日本について考える礎にもなっていることは言うまでもありません。

いろいろな場所での生活が自分を成長させてくれるとの漠然とした思いを入省前に持っていた私ですが、これだけの経験ができるとは想像していませんでした。新たな仕事に取り組むたびに業務内容だけでなく立場も変わり不安を感じることもありますが、良き上司・同僚に支えられてここまでやってくることができました。

ありきたりの言葉かもしれませんが、総務省はたくさんの可能性を与えてくれると思います。

ふるさと創生

総務省に入って10年目、現在、私は故郷である石川県で、少子化対策を担当しています。人口減少問題が叫ばれて久しいですが、減少に歯止めをかけるための施策の中でも、少子化対策はその中核的な柱であり、さらに今年は、県の少子化対策に関する計画である「いしかわエンゼルプラン」の改定年に当たります。「子育て先進県」といわれる石川県で、プランの改定を担うことには大変な重責を感じますが、現場での課題や県民のニーズは何か、県の施策として何ができるかを考えることは、国の仕事とはまた違った面白さがあります。

私が総務省に入ったのは、幼少時を過ごした奥能登の過疎化・少子高齢化の状況を見て、能登をはじめとした地方を支える制度づくりがしたいと思ったことがきっかけでした。実際にこれまで仕事をしてきて、地方の現場も経験しながら地方自治の根幹をなす制度づくりに関わることができるのが、やはり総務省の醍醐味であると感じます。

「地方勤務と育児を両立できるのか」という疑問を感じる方も多いかもしれませんが、育児中の女性職員でも地方で管理職として活躍するケースが増えてきています。我が家も現在2歳と5歳の息子二人の育児中ですが、私は実家のある石川県へ、同じ総務省職員である夫は隣の富山県に赴任するという形で配慮していただき、両親に支えてもらいながら仕事と育児の両立に奮闘しています。

地方のために働きたいという思いをお持ちの皆さんと、総務省でお会いできる日を楽しみにしています。



在英国日本国大使館一等書記官

篠野 敏行

HATANO Toshiyuki

平成 17年	4月	総務省自治行政局地域振興課
	8月	高知県企画振興部市町村振興課
平成 18年	8月	総務省消防庁消防・救急課
平成 20年	4月	同 自治財政局交付税課
平成 22年	8月	東近江市企画部次長
平成 23年	4月	同 企画部長
平成 24年	8月	内閣官房新型インフルエンザ等対策室
平成 26年	4月	新潟県総務管理部地域政策課長
平成 27年	7月	同 総務管理部財政課長
平成29年	4月	総務省消防庁総務課課長補佐
	7月	同 大臣官房企画課課長補佐
平成 30年	3月	現職



石川県健康福祉部少子化対策監室子ども政策課長

滝 仁和

TAKI Niwa

平成 22年	4月	総務省自治財政局財政課
	8月	福岡県企画・地域振興部市町村支援課
平成 23年	7月	総務省消防庁消防・救急課
平成 25年	4月	同 自治行政局選挙部管理課
平成 26年	11月	育児休業(第一子)
平成 28年	2月	総務省政治資金適正化委員会事務局
平成 29年	4月	育児休業(第二子)
平成 29年	8月	総務省富山行政評価事務所評価監視調査官
	10月	同 中部管区行政評価局総務行政相談部行政相談官
平成 30年	4月	石川県総務部市町支援課担当課長
平成 31年	4月	現職



日中青少年交流にて 元卓球選手の福原愛さんと

在中華人民共和国日本国大使館一等書記官

渡邊 倫幸

WATANABE Tomoyuki

平成 20年	4月	総務省採用
	同	行政管理局行政情報システム企画課
平成 21年	7月	同 大臣官房総務課審査・調整第一係
平成 22年	7月	同 情報流通行政局地上放送課デジタル放送受信推進室主査
平成 24年	8月	同 人事・恩給局公務員高齢対策課企画第一係長
平成 25年	9月	内閣官房原子力規制組織等改革推進室主査
平成 26年	4月	内閣府公益認定等委員会事務局総務課(総括担当)課長補佐
平成 28年	4月	総務省情報流通行政局地域通信振興課課長補佐
平成 30年	7月	同 大臣官房企画課サイバーセキュリティ・情報化推進室課長補佐
	併任	働き方改革推進室
令和 元年	7月	現職



議会で答弁する筆者

長野県小布施町企画政策課長

須藤 彰人

SUTO Akito

平成 26年	4月	総務省採用
	同	行政評価局評価監視官付(独立行政法人第一担当)
平成 26年	5月	同 行政管理局管理官付(独立行政法人評価総括担当)
平成 27年	8月	内閣官房内閣人事局総括係
平成 29年	7月	同 内閣総務官室主査
令和 元年	7月	現職

未来を切り拓く力

人口世界一位、GDP世界二位の国、中国。その急速な経済発展や政治的な動向は、世界中の国々が注目しています。今、私は中国で外交官として、「民」による日中交流の活性化に取り組んでいます。日中間では過去その関係が厳しい時期もありましたが、そのような時であっても「民間交流」は脈々と続き現在の日中友好の基礎となり、日本の発展にも大きく寄与しています。日本と中国は社会制度や法体系など異なる点もありますが、漢字、スポーツ、文化など相互でその価値観を共有できることも多くあり、「民」が主体となり、このような共通項を基に交流することは、今後の日中友好の更なる強化に繋がると信じています。

これまで総務省や内閣府で、公務員の雇用と年金の接続、地上デジタル放送への完全移行、公益法人制度の大転換など、前例のない様々な社会課題に取り組んできました。その際には、課題の要点は何なのか、解決のための要件は何か、解決に向け組織としてどのような行動が必要なのか、という未知の課題を切り拓く力を自然とキャリアアップの中で培うことができました。中国での仕事は一筋縄ではいかない案件が多くありますが、これまでの経験が日中交流の活性化や創出に大きく役立っています。

中国で働き世界の変化を日々肌で感じています。国と国との関係が複雑化し、明確な解がなかなか見出せない中で、各国とも試行錯誤しながら諸課題に対処しています。中国は失敗を恐れず、このような環境変化に果敢に取り組んだ結果、世界でも類を見ない成長を成し遂げています。その大胆な挑戦は大いに学ぶことができると思います。

霞が関、地方、海外と様々なフィールドで働き、視野を広げることができる環境が総務省にはあります。皆さんと共に挑戦できる日を楽しみにしています。

日々、地域で頑張る人々の想いに接しながら

小布施町は、長野県北部にある人口1万人ほどの県内で一番面積が小さい町です。古くから歴史と文化を軸とした独自のまちづくりを官民協働で推進し、近年では「小布施若者会議」の開催など関係人口創出にもいち早く取り組んできました。先人の努力により、現在では年間100万人以上が訪れる町になりましたが、一方で、全国の町村と同様に少子高齢化・人口減少問題を抱えています。

私は国から初めて町に派遣された職員として、主に町の地方創生に取り組んでいます。連日町民の皆さんと様々な場所でお話しながら議論を重ねていますが、地方創生の取り組みは全ての町の行政分野と関連するため、知識の習得に加え、人間力が求められる仕事であり、緊張感を持ちつつ充実した毎日を送っています。赴任して3か月後には、台風による河川氾濫の災害があり、一番近くで住民生活を支える自治体で働く責任の重さを改めて痛感させられました。

前職では内閣官房に出向し、政府全体の目線から国民のためになる仕事を心掛けていましたが、一転して行政の最前線で住民の皆さんを目の前にすると、時に国の制度上の課題に直面する場面があることに気づかされました。この町で日々頑張る人々の想いに接し、今後霞が関に戻った際には、住民本位の政策実現に貢献していきたい気持ちがより一層強くなっています。

総務省に入ると、若いうちから様々な分野で責任ある仕事を任せられます。経験が少ない中で仕事をこなしていくためには、大変なこともあります。環境の活かし方によって、自分をどこまでも成長させることができると実感しています。成長できるチャンスがあふれる総務省で、ぜひ一緒にチャレンジしてみませんか？